

「OECD国際共同研究プログラム」について

1. 事業の概要

OECD（経済協力開発機構）では加盟国間の農林水産研究交流の促進を目的とした「国際共同研究プログラム(CRP)」を 1979年から実施しており、我が国も 1990年から分担金を拠出して参加しています（現在、OECD加盟国のうち30か国が参加）。

本プログラムでは、プログラム参加国における短期在外研究（以下「フェローシップ」という。）や国際会議／ワークショップ／シンポジウム等（以下「イベント」という。）の開催への支援を行っており、応募・採択後は、フェローシップに要する旅費・滞在費、イベント開催資金の一部（講演者の招へい費等）が支給されます。

応募の際は、以下の3つの研究テーマの中から該当するものを選んで応募することとなります。

テーマ1：Managing Natural Capital

テーマ2：Strengthening Resilience in the Face of Multiple Risks in a Connected World

テーマ3：Transformational Technologies and Innovation

（参考）プログラム参加国（30か国）

オーストラリア、オーストリア、ベルギー、カナダ、チリ、コロンビア、チェコ、デンマーク、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ハンガリー、アイルランド、イスラエル、イタリア、日本、韓国、ラトビア、リトアニア、オランダ、ニュージーランド、ノルウェー、スロバキア、スペイン、スウェーデン、スイス、トルコ、英国、米国

2. これまでの実績

（1）フェローシップ

全体の応募者数及び採択者数（直近 7年間）

	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023年	2024年
応募者数	53 人	54 人	35 人	53 人	47 人	47 人	46 人
採択者数	20 人	19 人	18 人	25 人	18 人	19 人	18 人
採択率	38%	35%	51%	47%	38%	40%	39%

(2) イベント

全体の応募数及び採択数（直近 7 年間）

	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
応募数	16 件	20 件	12 件	6 件	20 件	21 件	26 件
採択数	10 件	8 件	8 件	4 件	8 件	8 件	7 件
採択率	63%	40%	67%	67%	40%	38%	27%

日本開催のイベント（2012年～）

- Plant and Microbe Adaptations to the Cold (PMAC) 2012: Toward risk assessment and management of sustainable agriculture in the cool and cold regions（2012 年 6 月：(独)北海道農業研究センター）
- 12th International Wheat Genetics Symposium（2013 年 9 月：横浜市立大学）
- Sustainable Management including the use of Traditional Knowledge in Satoyama and Other SELPs（2014 年 4 月：金沢大学）
- Updated Diagnosis and Epidemiology of Animal Prion Diseases for Food Safety and Security（2016 年 5 月：（国研）農研機構 動物衛生研究所）
- Global Goals - new approaches to knowledge generation: challenges and solutions from local to global scales（2017 年 8 月：東京大学（スウェーデンで開催））
- International symposium on food credence attributes: How can we design policies to meet consumer demand?（2017 年 5 月：大阪大学、青山学院大学）
- Climate Change and Food System - synergies of adaptation and mitigation, and advanced utilization of climate information for sustainable and climate-resilient agriculture（2022 年 10 月：（国研）農研機構）
- 9th ISMOM: International Symposium on Interactions of Soil Minerals with Organic Components and Microorganisms: from soil organic-mineral interactions to soil management strategies (ISMOM 2024)（2024 年 10 月：（国研）農研機構）
- Bridging Selective Breeding and Cutting-edge Biotechnologies: Transformative Technological Innovations for Strengthening Aquaculture Resilience（2024 年 10 月：東京大学、東京海洋大学、福井県立大学）

3. 支援内容

(1) フェローシップ

ア 派遣期間：6～26 週

イ 派遣時期：2026年 3 月1日から、12月15日までに出発すること（事務手続きは11月1日までに終了させること）。

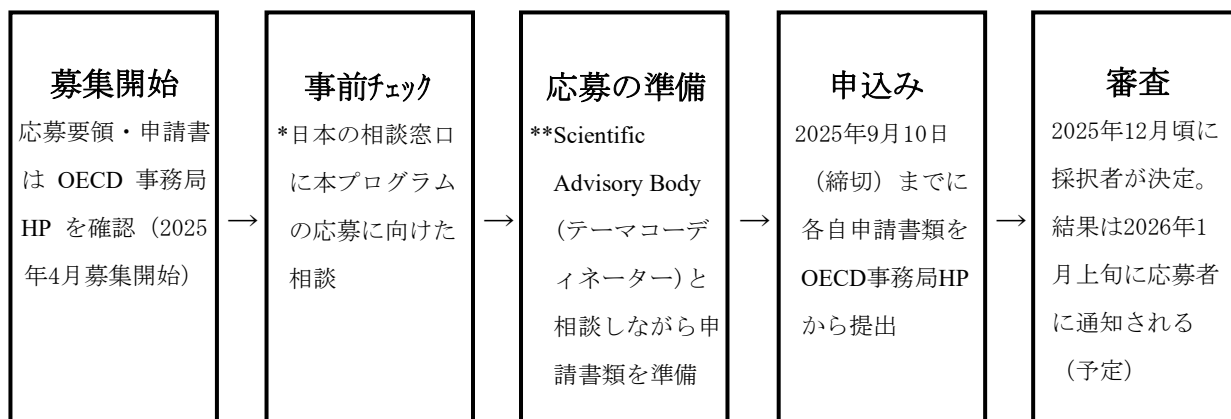
ウ 資 格：原則として博士号取得後 4 年間の経験を有する者。又は相当の専門知識をもつ者（年齢制限無し）

- エ 支給経費：●往復旅費（居住地から受入研究機関までの1往復分の旅費（エコノミー航空券（APEX等）に基づいて算出）
- 滞在費（宿泊費・食費・通勤費として600ユーロ又は650ユーロ相当/週、都市により異なる）
 - 荷役料金（165ユーロ）
 - ベンチフィー（研究機材・施設の使用料など）は支給されない（生命保険や健康保険、通勤にかかる費用、家族の旅費、パスポートやビザ取得にかかる費用等も支給されない）。
- オ 派遣先：プログラム参加国にある任意の研究機関。応募申請を行う前に事前に受入先機関に各自で申し込みを行い、相手方の受入れ意思を示す招へい状を入手する必要がある。

（２）イベント

- ア 支援対象：2026年中に開催する、単独の会議やワークショップ、あるいは大規模な会合内の一部のセッションであって、対面のみならずオンライン形式又はハイブリッドで行われるものも含む。
- イ 支給経費：●対面又はオンラインとのハイブリッド形式の場合：
招へいする講演者の交通費、宿泊費、参加費（OECDの規程に基づいて算出、ただし本プログラム参加国の国籍を有している者又は参加国に居住している者のみ対象）
- オンラインイベントのみの場合：
これを主催する費用
- プロシーディングス発行の分担金（3,050ユーロ、プロシーディングスはOECD事務局へ60部と各講演者に1部ずつ送付する必要がある）
 - 会場レンタル費、会食費などは支給されない。
- ウ その他：イベントには **Scientific Advisory Body（テーマコーディネーター）等が参加し、議事次第の中で本プログラムを紹介する機会を設けることが求められる。

4. 応募の手順



【応募及び募集要項】

OECD CRP事務局ホームページアドレス

<https://www.oecd.org/en/about/programmes/co-operative-research-programme.html>

*日本の相談窓口

申請書の作成にあたっての留意点や、採択のポイント等のアドバイスを行っていただいております。

申請に当たっては是非御相談いただきますようお願いいたします。

(フェローシップに関すること)

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

本部 企画戦略本部 研究統括部 国際課長 岸本 早苗

住所 〒305-8517 つくば市観音台 3-1-1

電話 029-838-6747

メールアドレス sanaeアットマークaffrc.go.jp

(イベントに関すること)

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

理事長 中山 一郎

住所 〒221-8529 神奈川県横浜市神奈川区新浦島町 1-1-25

GRC横浜ベイリサーチパーク 6階

電話 045-277-0021

メールアドレス nakayamaアットマークaffrc.go.jp

**Scientific Advisory Body (テーマコーディネーター)

OECD に任命された研究者であり、申請書の確認やプログラム準備の支援等を行います。
以下のとおり、研究テーマ毎に2名のコーディネーターがおり、申請書の提出前に相談する事が強く推奨されています。

<https://www.oecd.org/content/dam/oecd/en/about/programmes/co-operative-research-programme/CRP-SAB-members.pdf>

Theme 1 Managing Natural Capital

Dr. Ichiro NAKAYAMA

President The National Research and Development Agency

Fisheries Research and Education Agency (FRA), Japan

E-mail: nakayama_ichiro38アットマークfra.go.jp

Prof. Paloma MELGAREJO NÁRDIZ

National Institute for Agricultural and Food Research and Technology (INIA-CSIC)

Department of Vegetal Protection, Spain

E-mail: melgarアットマークinia.csic.es

Theme 2 Strengthening Resilience in the face of Multiple Risks in a Connected World

Dr. Se-Yeoun CHA

Jeonbuk National University

College of Veterinary Medicine and Center for Poultry Diseases, Republic of Korea

E-mail: seyeounchaアットマークjbnu.ac.kr

Dr. Michael J. ROTHROCK

Research Microbiologist and Lead Scientist

USDA-ARS, US National Poultry Research Center, United States

E-mail: michael.rothrocksアットマークusda.gov

Theme 3 Transformational Technologies and Innovation

Dr. Lieve HERMAN

Unit Head - Technology and Food Science

ILVO - Flanders Research Institute for Agriculture, Fisheries and Food, Belgium

E-mail: lieve.hermanアットマークilvo.vlaanderen.be

Dr. Andy SHEPPARD

Research Director

CSIRO Health & Biosecurity, Australia

E-mail: andy.sheppardアットマークcsiro.au